

# 耕畜連携体制再構築を通じた 葛尾村の農地利用再開支援

相双農林事務所 双葉農業普及所

## 1 背景・ねらい

- ・葛尾村は畜産・水稻を基幹産業とする山村であったが、原子力災害による全村避難により全ての家畜飼養・農地利用を中断。
- ・平成28年6月、令和4年6月に避難指示解除。一部、帰還困難区域を残す。
- ・畜産の基盤回復と、農地との結び付きの復旧を通じ、令和7年度までに震災前の営農面積の6割(約240ha)の再開を目指す。

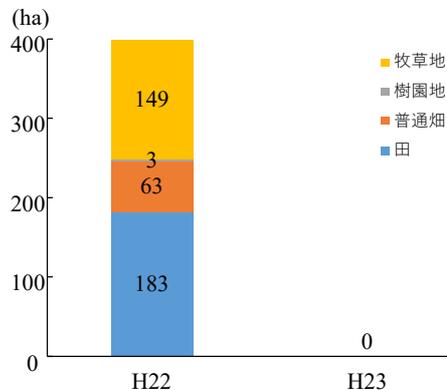
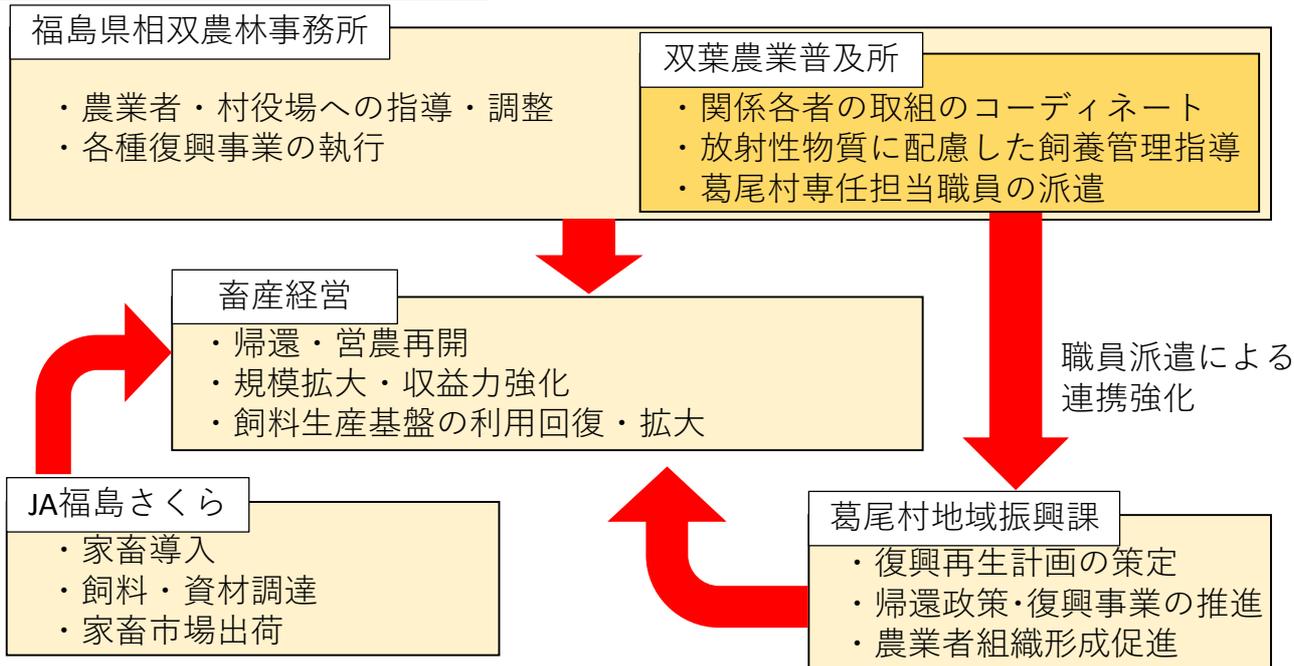


Fig1 原子力災害による農地利用の変化

## 2 活動内容

### Phase1 活動体制構築



### Phase2 中小規模畜産経営の再開支援



- ・ 家畜飼養実証
- ・ 飼養状況確認調査
- ・ 施設整備・家畜導入支援
- ・ 牧草・飼料作物  
吸収抑制対策指導

### Phase3 農業者組織の構築



- ・WCS用稲生産組合の育成
- ・WCS用稲収穫調製機械の導入・貸与  
水稲経営の水田利用高度化
- ・クラスター協議会の設立  
村の畜産振興の取組の定量化

### Phase4 大規模畜産経営体の育成



- ・村が大型畜産施設を整備し、4法人に貸与。  
生産拡大、農地利用拡大、村内就労人口拡大を図る。
- ・大型畜産経営体を地域計画の担い手に位置付け、集積を強化。

## 3 成果と課題

### 【成果】

- ・平成28年度末～令和4年度にかけ、和牛繁殖16戸、酪農1戸の経営を再開。
- ・令和5年度までに営農休止面積の約4割に当たる150.9haの農地利用を再開。うち家畜飼料（牧草・飼料作物・稲WCS）で約75haを占め、畜産振興が大きく貢献。

### 【課題】

- ・旧特定復興再生拠点区域及び帰還困難区域の利用再開。
- ・地域計画策定過程で、狭小圃場の利用低迷が顕在化。

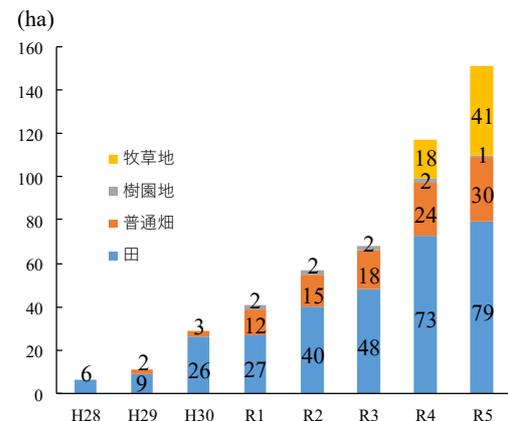


Fig2 農地利用再開状況

## 4 今後の活動・方向性

- ・葛尾村乾草供給センターの利用再開  
特定復興再生拠点区域内約16haの利用計画決定  
帰還困難区域内約35haの避難指示解除に向けた調整
- ・地域計画の新規策定・更新  
特定復興再生拠点区域内の計画新規策定に向けた集落座談会  
計画更新と連動し、畑地化や面工事による生産性向上
- ・畜産クラスター計画更新  
次期計画策定に向けた課題の整理